公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信

2017年
7月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆奥多摩支部が登山者を対象とした探鳥会を開催しました・・・・・・・・・・・・・・・・1
◆探鳥会訪問記・・・・・・・・・・・・・・・3
・新浜探鳥会（日本野鳥の会東京）
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・5
（2017年5月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・7
・ツバメのねぐら入り観察会を広報しています
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・8
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・9
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・9

◆奥多摩支部が登山者を対象とした探鳥会を開催しました

6月11日に、奥多摩支部が登山用品店「好日山荘」のお客さんを対象とした「登山探鳥会」を開催しました。奥多摩支部は山をフィールドとすることが多く、このイベントで、入会促進に繋げたいという意図がありました。

【日時】2017年6月11日（日）
9時30分～15時30分
【場所】三頭山（東京都西多摩郡、標高1,531 m）
【天気】曇り
【参加者】23名
【リーダー】6名
【協力】株式会社 好日山荘

■背景

昨年、奥多摩支部は、好日山荘の店舗でバードウォッチングの机上講座を開催しています。（参照：探鳥会スタッフ通信 12月号 http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201612.pdf ）今年は野外イベントの開催を検討した結果、好日山荘に広報協力をいただくかたちで、登山探鳥会を開催することになりました。

会場は、支部で年2回探鳥会を開催している三頭山（みとうさん）。さえずりが楽しめる6月に開催されました。

■定員を超える人気ぶり

好日山荘から、お店のポイントカードをお持ちの方へメールマガジンを通して広報していただきました。当初 20 名定員でしたが、33名のお申込みがあり、リーダーを増やし、25名を受け入れました。

■当日の様子

受付は標高1,000mにある駐車場の売店前。車やバスで集合できます。目印に支部の旗を掲示し、双眼鏡の貸出もありました。参加者は、30 代女性が多く、年配のご夫婦も含め、皆さん登山の経験者。アクティブな印象です。

▲オオルリを観察中

9時30分になると、挨拶があり、リーダー

の紹介やコース、トイレの案内がありました。続いて怪我を予防するための体操を皆で行い、参加者の緊張もほぐれていきました。その後、双眼鏡の説明が丁寧に行われました。

参加者の前後と間にリーダーが適宜入り、観察がスタートしました。前半、ウッドチップの敷かれた勾配の少ない道を歩いていると、
「オオルリが鳴いています。」
とリーダー。意識せずに歩いていた参加者が、驚いて耳を澄ます。期待が高まる中、視界の開けた場所で、リーダーが姿を発見しました。参加者は双眼鏡や、望遠鏡で観察して、
「すごい！すごい！」
「嬉しい！」
と大喜び。リーダーは、どうやって見つけたのか不思議がる参加者に、
「まずは鳴き声で気づいて、オオルリは木のてっぺんにいることが多いので、その習性を利用して探します。」
と説明されていました。オオルリのいる木は見下ろす位置にあったため、青色が綺麗に見え、全員で観察が出来ました。

リーダーの紹介のもとヤブデマリやツクバネソウなどの花も観察しつつ、三頭大滝を眺め、登山道に入りました。川沿いの登山道では、ミソサザイの大きな声が聞こえてきます。何度も鳴いていたため、参加者もはっきり認識してきた頃、倒木の近くで、毛繕いをする姿を見ることが出来ました。

お昼は、頂上近くでお弁当を食べました。参加者同士も仲良くなっており、支部で行っている登山探鳥会の情報を聞きながら、
「絶対に参加してみたい。秋は紅葉も楽しめますね。」
「探鳥会はどのルートで登っていますか？」
などと山談義に花が咲いていました。

昼食後、13 時 30 分頃に頂上に到着。神秘的な植物ギンリョウソウや羽化したばかりと思われるオオミズアオなども見られました。帰りも、鳥の声を聞きながら黙々と歩くことと、姿が見られたらとまることを繰り返して、下山しました。鳥が良く見られたため、解散時間が押してしまいましたが、鳥合わせや支部の探鳥会の紹介をして無事に終了しました。

観察した鳥は、アオバト、ジュウイチ、ホトトギス、トビ、コゲラ、アオゲラ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、ゴジュウカラ、ミソサザイ、コルリ、ルリビタキ、キビタキ、オオルリ、キセキレイ、ホオジロの 24 種でした。

▲鳴き声に耳を傾けながら登る

■参加者の声

30 代女性：鳥を見ながらゆっくり登る体験は初めてで、新鮮でした。景色を見るために天気は晴れが良いと思っていましたが、目的が自然の生き物を見ることとなると、今日ぐらい曇っていても関係ないですね。リーダーの方が、鳥だけでなく植物や昆虫にも詳しくて、知識に驚きました。

50 代女性：高尾山に年間を通して登っています。植物や哺乳類と違って、鳥はなかなか姿が見られないため楽しみ方が分かりませんでした。今日、皆さんが声を聞いている様子を見て、鳴き声を覚えることで楽しめるのだと分かりました。

■まとめ

葉の茂った季節に、バードウォッチング初心者に「登山探鳥会」をすると聞くと、鳥が見られるだろうか、長い距離や時間に疲れてしまわないかと心配になりますが、その心配は不要でした。今回は、バードウォッチング初心者といっても、皆、登山の経験者。野外活動の装備や対策は揃っており、体力も十分にあります。

特に印象的だったのは、参加者は、鳥がいるかいないかに関わらず「山を登る」こと自体が好きで、楽しめる方たちであるということ。今回のイベントは、山を登る楽しみに、鳥の鳴き声、時には姿が見られるという楽しみが加わったこととなり、始終、参加者は満足されていたようでした。

山をフィールドとした探鳥会が多いという特性を活かした、奥多摩支部のアプローチ。「山も鳥も初めて」という方たちと比べて、登山者は支部との親和性の高さが感じられ、非常に奥多摩支部に適したイベントだったと思いました。

（普及室／堀本理華）

◆探鳥会訪問記

新浜探鳥会（日本野鳥の会東京）

千葉県市川市行徳にて、日本野鳥の会東京、千葉県野鳥の会、NPO 法人行徳野鳥観察舎友の会共催の新浜探鳥会（定例探鳥会）に参加して参りましたので、ご報告いたします。私が探鳥会に参加するのは初めてでしたが、想像以上に楽しい時間となりました。

【日程】2017 年７月９日（日）
10 時 00 分～13 時 30 分
【天気】晴れ
【場所】行徳鳥獣保護区（千葉県市川市）
【参加者】17 名
【リーダー】７名
【共催】千葉県野鳥の会、NPO 法人行徳野鳥観察舎友の会

■探鳥会の概要

今回の開催地である「行徳鳥獣保護区」（83ha）は、野鳥の生息の場と緑地を保全することを目的に、人工的に造成された緑地です。ふだんは立ち入り禁止ですが、探鳥会などのイベントを行なう場合は、行政に許可を取ることで、保護区内の自然を楽しむことができます。探鳥会のコースには、次の２つがあります。

① 行徳駅から歩いて保護区へ行き、保護区内をゆっくりまわるコース
→昼食後、13:30 頃に行徳野鳥観察舎で解散。

② 行徳駅からバスを使い、江戸川放水路の鳥も観察するコース
→昼食後、保護区をまわり 15:30 頃解散。

今回は、猛暑のため、参加者の健康に配慮して、全員で①のコースをまわることになりました。

■探鳥会の様子

当日は、朝から日差しが容赦なく照りつけ、南風・気温は 33 度という夏日でした。待ち合わせ場所は行徳駅の駅前広場。望遠鏡を担いだ人や双眼鏡を首から下げた人などが集まるなか、受付を済ませました。そして午前 10 時、地図看板を前にして、開会の挨拶が行なわれました。コースやその周辺の歴史についてレクチャーもあり、とても興味深く聞き入りました。熱中症対策に、充分な水分補給への注意がされた後、いよいよ探鳥会のはじまりです。

保護区に足を踏み入れると、都市近郊とは思えぬほどの自然の宝庫です。チョウトンボが舞

▲観察の様子

い、ゴマダラカミキリが草むらから飛び出します。道には白い可憐な花を咲かせたヤブジラミが続きます。

「タヌキのフンに気をつけて！」
と声がかけられ、指さす方を見ると、立派なブツがゴロゴロと。夏場は鳥が少ないとのことですが、同行の方々は動植物に詳しく、鳥以外にも豊かな楽しみが広がります。

オオヨシキリの声を聞きながら、しばらく歩みをすすめていたところ、リーダーから土手にのぼるよう促されました。土手の上、広がる湿地に向かって三脚が次々に立てられていきます。裸眼では、黒や白の点々としか見えませんが、双眼鏡でのぞくと、思い思いの姿態をとる

アオサギ、ダイサギ、コサギが数羽。
「アマサギもいる！」
という声があがり、慣れない双眼鏡を必死で操ることしばし。風に揺れる草むらから、オレンジ色の頭がピョコピョコと現れました。ああ、本物だ！図鑑では知っていましたが、実際に見るのははじめてで、胸が高鳴りました。５羽のアマサギはやがて飛び立ち、木々の梢にとまりました。

アマサギと会えた感動を参加者の方々と語りながら、次の場所へと向かいます。突然、
「アオサギがほら、いるいる！」
と遠景の中の樹木のひとつを指さされますが、ただ茂る葉があるばかりで、何も見えません。しかし望遠鏡をのぞくと、確かにいました。背後に広がる空の色に溶け込みながら、すっくと身を立て、レンズ越しに私の方を見ています。
「どうして、〝いる〟と気づくのだろか！？」
と、感嘆の思いを強くします。

▲昼食の様子

保護区では多数のカワウがコロニーを形成していて、食事帰りなのか群れなして三番瀬から戻ってきます。その姿を見た後、枝を張り出した大樹の陰で涼みながら、お弁当を広げてお昼をとりました。参加者同士で会話を楽しみ、交流が深まっていく様子が感じ取れます。昼食後は、林の中の水路や干潟のほとりを歩きながら、帰路につきました。初心者ということで私の他一名が、特別に一行の先頭に立たせていただき、大慌てで巣に戻ろうとするカニの大群の姿を楽しみました。解散場所に到着したあと、東京の石亀さんの進行で鳥合わせをし、23 種類の野鳥が見られたことを確認しました。

観察した野鳥は、カルガモ、オナガガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、コチドリ、イソシギ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロです。

■参加者の声

初心者の女性（４０代ぐらい）：市川市在住だけど、身近な場所にこんな豊かな自然が残されていることをはじめて知った。鳥だけではなく、動植物や自然について詳しい参加者が多く、気軽に話ができてとても勉強になった。心が癒されるし、またぜひ、参加したい。

■まとめ

私は探鳥会に今回初めて参加しましたが、期待以上に楽しく豊かな体験をすることができました。鳥についての知識が足りず、気後れもしていたのですが、約半数を占める常連の参加者たちは、ちょっとした疑問などにも詳しく教えてくださいまして、とても温かい気持ちとなりました。またリーダーの方々の、わかりやすい中にも要点が盛り込まれた説明に、「鳥や自然について興味を持ってほしい、理解を深めてほしい、そして楽しんでほしい」という細やかな心遣いを感じることができました。

また、探鳥会は雨が降ると中止となることが多いのですが、この新浜探鳥会では「雨天決行」です。そのことについて石亀リーダーに質問したところ、この行徳の探鳥地は歴史が古く、担当の者は雨だろうが必ずここに来て、毎月継続して鳥の観察記録をつけ続けている。そのため、担当でなくてもベテランは、雨が降っても集まるようになり、自然に「雨天決行」となった、とのことでした。

初心者は、私のほかに４０代ぐらいの女性の一名でしたが、会全体のアットホームな空気の中で、長年の友人であるかのように、自然に打ち解けることができたことが印象的でした。

（会員室／森田久美子）

◆探鳥会保険集計結果（2017 年５月分）

５月は 69 支部からご報告をいただき、計 331 回の探鳥会が開催され、のべ 8,802 人が参加されました。

表 1. ５月の探鳥会保険集計結果（2017 年６月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	4	83	21	4	108
根室支部	0	0	0	0	0
釧路支部	2	22	34	7	63
十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	5	74	8	10	92
滝川支部	2	16	7	2	25
道北支部	2	20	15	4	39
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	4	119	57	15	191
小樽支部	3	14	19	4	37
苫小牧支部	1	5	5	1	11
室蘭支部	4	35	15	8	58
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	4	24	51	7	82
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	8	86	22	8	116
秋田県支部	3	40	12	4	56
山形県支部	7	38	37	9	84
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	3	44	53	10	107
北上支部	2	20	19	6	45
宮城県支部	4	40	26	8	74
ふくしま	1	33	19	4	56
郡山支部	3	54	26	9	89
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	1	0	0	4	4
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	2	34	8	2	44
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	10	95	92	13	200
栃木	−	−	−	−	−
群馬	10	95	90	33	218
吾妻	−	−	−	−	−
埼玉	8	235	74	48	357
千葉県	7	81	61	34	176
東京	13	601	43	62	706
奥多摩支部	10	172	31	40	243
神奈川支部	13	204	109	44	357
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	41	20	4	65
石川	4	43	13	8	64
福井県	9	46	31	23	100
長野支部	4	99	31	8	138
軽井沢支部	3	33	35	3	71
諏訪支部	0	0	0	0	0
木曽支部	2	13	6	3	22
伊那谷支部	3	22	43	7	72
甲府支部	2	52	24	4	80
富士山麓支部	2	20	15	4	39
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	2	16	9	4	29
南富士支部	4	114	24	6	144
南伊豆	1	7	5	2	14
静岡支部	4	45	28	10	83
遠江	3	94	42	14	150
愛知県支部	16	240	265	43	548
岐阜	-	-	-	-	-
三重	8	62	50	13	125
奈良支部	4	92	38	20	150
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	6	46	78	12	136
京都支部	10	175	77	27	279
大阪支部	21	405	148	102	655
ひょうご	7	114	175	25	314
NPO法人日本野鳥の会鳥取県	5	91	73	9	173
島根県支部	2	12	3	2	17
岡山県支部	5	110	88	15	213
広島県支部	5	74	62	5	141
山口県支部	4	20	45	4	69
香川県支部	3	101	36	4	141
徳島県支部	6	75	21	6	102
高知支部	2	17	12	2	31
愛媛	4	55	34	8	97
北九州支部	3	38	26	6	70
福岡支部	8	130	67	17	214
筑豊支部	5	37	5	5	47
筑後支部	5	32	37	10	79
佐賀県支部	3	49	39	4	92
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	5	57	28	8	93
大分県支部	3	15	25	4	44
宮崎県支部	5	49	49	9	107
鹿児島	4	70	65	15	150
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	1	5	0	1	6
全国	331	5100	2826	876	8802

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■ツバメのねぐら入り観察会を広報しています■

「ツバメのねぐら入り観察会」の情報提供にご協力いただき、ありがとうございました。お知らせいただいた観察会について、以下の広報を実施していますのでお知らせいたします。

（1）「ツバメのねぐら入り観察会のご案内」送付

6月下旬に、パンフレット「ツバメのねぐら入り観察会のご案内」を全国の約 45,000 名（2016 年度以降の小冊子申込者等）に送付しました。

（2）財団 HP 上に特設ページ開設

財団 HP 内に、以下のページを公開しています。

・全国「ツバメのねぐら入り観察会」のご案内
https://www.wbsj.org/activity/event/swallow-roost-observation/

（3）一斉メール送信

6月下旬に全国約 48,000 名（2010 年以降の小冊子申込者等）に送信しました。

（4）野鳥誌

野鳥誌 7・8 月号へ掲載します。

※参加者名簿（お名前のみ）をお送りください

財団では、パンフレットの郵送や一斉メール送信による広報の効果を測りたいと考えています。今回、情報提供をいただいた観察会について、当日の参加者の「お名前」をメール（ tancho-staff@wbsj.org ）か FAX（03-5436-2635）でお送りいただけますと幸いです。なおお送りいただく際は、メールの場合は、エクセルにパスワードをかけ、パスワードを別送してください。FAX の場合は、送信前に普及教育グループ（TEL03-5436-2622）にご一報ください。

ご協力よろしくお願いいたします。

▲パンフレット「ツバメのねぐら入り観察会のご案内」表紙

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信７月号の電子メール版の購読者数は、先月より１名増えて 881 名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表２．探鳥会スタッフ通信７月号電子メール版の購読者数（2017 年７月 18 日現在）

支部	購読者数
小清水	1
オホーツク支部	6
根室支部	0
釧路支部	2
十勝支部	72
旭川支部	3
滝川支部	1
道北支部	1
江別支部	0
札幌支部	4
小樽支部	3
苫小牧支部	2
室蘭支部	5
函館支部	0
道南桧山	1
青森県支部	1
弘前支部	4
秋田県支部	3
山形県支部	4
宮古支部	1
もりおか	4
北上支部	2
宮城県支部	39
ふくしま	4
郡山支部	1
二本松	1
白河支部	2
会津支部	2
奥会津連合	0
いわき支部	1
福島県相双支部	0
南相馬	0
茨城県	22
栃木	59
群馬	24
吾妻	1
埼玉	37
千葉県	21
東京	64
奥多摩支部	48
神奈川支部	21
新潟県	2
佐渡支部	1
富山	3
石川	29

支部	購読者数
福井県	10
長野支部	1
軽井沢支部	1
諏訪	6
木曽支部	1
伊那谷支部	1
甲府支部	4
富士山麓支部	0
東富士	0
沼津支部	3
南富士支部	3
南伊豆	2
静岡支部	2
遠江	9
愛知県支部	44
岐阜	5
三重	19
奈良支部	2
和歌山県支部	4
滋賀	19
京都支部	30
大阪支部	26
ひょうご	15
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
島根県支部	12
岡山県支部	27
広島県支部	9
山口県支部	3
香川県支部	6
徳島県支部	6
高知支部	1
愛媛	15
北九州	11
福岡支部	12
筑豊支部	21
筑後支部	6
佐賀県支部	5
長崎県支部	1
熊本県支部	14
大分県支部	4
宮崎県支部	4
鹿児島	3
やんばる支部	0
石垣島支部	1
西表支部	1
合計	881

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

今月から本格的に、各地でツバメのねぐら入り観察会がはじまりますね。成功をお祈りしています。

お恥ずかしながら、私自身はツバメが河原で集団ねぐらを作るということを財団で勤務をはじめてから知りました。そして、自宅の近くにツバメのねぐらがあることを知り、行ってみると…ものすごい数のツバメが集まっていて驚きました。

帰り道では小さな神社からアオバズクの鳴き声が聞こえて、さらに驚きました。「身近なところにも、意外とたくさんの野鳥がいるんだなあ」と、今になって改めて感じるとは思いもよりませんでした。

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第52号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2017年7月19日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org